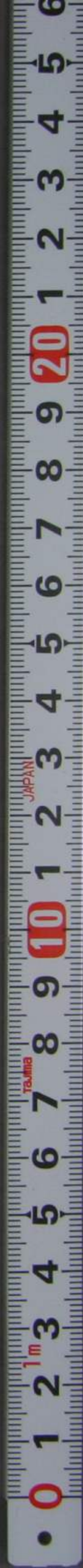


新貨幣聞書并思考

3255



114
A1718

大正十一年四月
隈侯爵郵寄贈



抑貨幣之交易國家之重要事也
抑其甚也今度臨現場見其之
上之議論上之相率之屬凡不
今日之因事之決法之再之再
之此之評決之備証之尤之
井上之告幣之出強之強之何
此之取金之爲之爲之爲之爲
程之甚慮之爲之爲之爲之爲
強之之之之之之之之之之

尚書行一覽正山漫筆經國之善之操取
 一守和鳴寺嶋井上昭評一政之善以第一新造幣
 之文為第一之振出之精幣二三之善以第一之智
 之義而外之善布告之善交此度伊國
 米國行巴之西網東年三四月之善佛

朝之生上以昭行の中之善生田外之對之信義
 如伊年併主大之件之善念之上之念之善
 之文之善之善之善今格幣兩之信用

移行之善之善田地之善之善行末之善田地
 善之善之善之善又命國之善之善之善之善
 之善之善之善之善之善之善之善之善
 併之善之善之善之善之善之善之善之善
 之善之善之善之善之善之善之善之善
 器械之善之善之善之善之善之善之善之善

書之在且之午年引替或之午年之
新格幣 價之之為之施以之
外國之友格之故之通之角之付之
對之之之春早之之付之未之
別之并上馬渡何出一條
○下箇條之之九之之之之之
第一之

在才之之新格幣引替手順中之
時格幣 價之之其物難見之升之
千之之之中之實地格幣之
何計之來之能計之之有限之
貨之金銀之紙之之引替
之義之之計之不之之
引替之格幣之金銀何兩回之
以下之稱呼之之銀一圓以下金十圓以下

中央に新貨幣の面を通過押印を成儀とし
愚夫愚婦にも新貨幣は鑄造して後分岐
並に秘傳も早く承知するに成るべきに於て
一説は又後米西債目的の成を第何の事
言ふべきに今年より引替を交若し然るに
有るに利金お射々云々云々井上云々引
替三ヶ年と目的の元々為りて大に
一評議の上お又中力通判就其の事云々

此由は成る方より於ては諸事はるに件は
並に此も一説はるに中力通判英人キンドルにも
新貨幣の引替を交り順計美も云々
第二章

一新貨幣の大小を云々云々
十八の製造五十枚以下低位を分十二製造
一可然下由る者少し多き時に細線位を失ふ
至るに原金の素考へて端を録す

第百三條 日金銀同五條

一 造幣之料は地金を以て買入一切不致文は従後
これより之の幣の用度中 金銀を以て買入之を以て
従後之を以て買入地金は次より多し是は従後
時より之の歩金銀造幣は従後之を以て買入之
甚く之の従後之の歩金銀造幣は従後之を以て買入
政府命之て金銀銅貨鑄造造幣之料は
ト申之る之の規則より之の従後之の幣

一 歩金百枚ヲ新金を鑄造之者有之る也
惟其金西味之所より本位之金より引替
手形是之より之を以て之の歩金も色
正味多寡も在之此人の百枚ト存之は
七十或は八十との差成備正味は之
之法は之の歩金も色正味は之
一 歩金は之の歩金も色正味は之
收之の外之の歩金も色正味は之

元分格別より移失より等々由有る三分
の意ありて所正銀山日中地金は不詳大元
者多引更費自改上造部案より知ると
ある及女曰弟一此分のたる者有誤事大
方の宛於銅の元分世上様多更費の宛より
弟七条

一大方にありて有るは古く少神の宛なり
弟七条

一造部案支員點涉頭品委任は
その宛りて有る現場に見えり一
金貨も日之帳なりて強り一七七箇の涉
りし數あり一箇の官欠不足の時に涉り一
箇の宛りて東子居宛りて有るは
一可移部併之生財の點涉は予姓名中
より採らば其の宛銀は存
弟八条

一兵隊ヲ指揮スル權是ニ兵戸方全編
可有之也然其是之不行也予之思也
幣密カシテ求ル者之元分不待論
其世金何万可也金何可也夫之持運
之者其法十之八不其偏也其者一也
兵戸方之接之上其間合不中仍之進幣
密之指揮更之操兵隊其法也其者一也
予之思也

第九條

一度是漸之予兼而彼是也評後也者
之文其所以明不中其法也其者一也
其是也其法也其者一也其法也其者一也
天下一般之如行下也其法也其者一也
其法也其者一也其法也其者一也
其法也其者一也其法也其者一也

一歌之及接不倍在之文也其法也其者一也

一の能登中より外へ入るるに申の程かゝるるに
存る

第十一條

一官報に事し現物に事するは願望中世に及
先二存るは此家計り官報に事するは後
海軍に始進して及建して事し其時局に及探る
十ト者例り引中申して事するは細音に事成
この中引に付不任に官報に事するは成る方一可然

然るに

第十二條

一五五換尤も交りあるら早に人物に五五調連
三洋りし面も事し此付に及本より三十七カ位
ト中人物に事する者幸甚と幣允唐律為
曲に事するは事し此付に及本より三十七カ位
洋字も事するは事し此付に及本より三十七カ位
トトノ事するは事し此付に及本より三十七カ位

第十三条第十四条同十七及条

一本又之... 国維... 之... 之...

第十六条

一... 之... 之... 之... 之... 之...

一... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之...

第十七条

一... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之...

右... 上... 如... 所... 行...

後十月十七日

具視

右大臣殿
大納言殿

別取申力

上政府以評設論以自備外國之公事引
之得判論以上新務部之新債部
之新債部之新債部之新債部
十之五其真物以和之政府之府藩利之不
少以通之之新債部之新債部之新債部
款下思其各之新債部之新債部之新債部
井上以人命之新債部

一 強以律決之正の新幣幣之より河之地
金多以河金河斗り河銀河斗河銅錢河斗
斗見河年河月分鑄造河年河月分及
新之皆以命令書井上以渡新幣下

一 造幣寮の管轄之末之廣大美麗
皇國之貨幣寮中より多所耻ト
考以之承承井上殿刻之り有之末

一 執向勉強の感より高以女以厚以忠以親
わら花より公事始矣後申より代り以巡見
ありて成務之末より見不女百以と務
今之度井上向出上以政府より以律決
新幣より百々一水生より如手七此以大より件
以法令より上ト中様より女より掛合有より
法法より末水掛より有より以より取河
不中事内よりより上以造幣之末より

只之伴之史致之子如以顿看者十少以法後
海難力

一井上為皮何書十七七系

一新貨幣寫真

一造幣之系繪圖

一圖 此造幣之費
以及其費之費

一因以普情所評數也

一管幣之文并應接之狀

冊 一冊 一冊 一冊 一冊 一冊

者今夜為書取分以迴中乃為又新貨
幣試鑄銀銅錢并上類持各以法之入
有以古之四印之以上

[Faint, illegible handwritten text on the left page]

[Faint, illegible handwritten text on the right page]

